

## 平成 25 年度第 4 回児童福祉専門分科会会議概要

- 1 開催日時 平成 26 年 3 月 28 日（金）13：30～16：00
- 2 開催場所 青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）3 階 大会議室、中会議室
- 3 出席委員 宮崎秀一会長、長内幸雄委員、鳴海明敏委員、木村聖一委員、  
松浦健悦委員、森理恵委員
- 4 欠席委員 佐藤秀樹委員
- 5 事務局出席者 健康福祉部長 赤垣敏子、健康福祉部次長 貝森敦子、  
子どもしあわせ課長 舘山新、同課副参事 小倉信三、  
同課主幹 竹内巧、同課主幹 嶋中しのぶ、同課主査 坂本亮、  
同課主事 柿崎優子
- 6 その他出席者 青森市子ども委員 23 名、子どもサポーター 5 名
- 7 会議内容

### 【青森市子ども会議との合同会議】

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 活動を振り返っての感想
- 4 フリートーク～来年度の子ども会議でやってみたいことなど～
- 5 市長から励ましの言葉
- 6 閉会

### 【青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会】

- 1 開会
- 2 健康福祉部長あいさつ
- 3 報告
  - (1) 平成 26 年度青森市子ども施策に関する主な取組みについて
  - (2) 平成 25 年度第 2 回及び第 3 回青森市子ども・子育て会議の概要について
  - (3) その他
- 4 閉会

### 【青森市子ども会議との合同会議】

#### 活動を振り返っての感想

子ども委員、子どもサポーターによる今年度の子ども会議の活動を振り返っての感想及び児童福祉専門分科会委員からの感想

○子ども委員

他校の子ども委員や大人と意見交換していく中で、自分と同じ考えを持っている人がいることや、自分では考えられない新しい考えがあることを発見できてとても楽しかった。これからも、子どもの権利について、より多くの人に知ってもらえるよう活動していきたい。

○子ども委員

今年度の活動はすごく充実したものだ。イベントに関して、自分たちで企画し、アクションを起こすということをあまりやったことがなかったので、最初はうまくできるか心配だったが、約30人のメンバーが自分たちの意見を出してくれることで、すごくいいイベントになったと感じている。

○子ども委員

子どもの権利について知るだけでなく、今まで目を向けたことのなかった団体やいろいろな人と関わることができて、自分自身の視野を広げることができた。幅広い年齢層の中で、いろいろな考え方や視点の違いなどに気づかされ、良い意味で影響を受けた。

○子ども委員

子どもの権利に関する学習会やイベント、街をテーマとした活動では、他ではできない貴重な経験ができた。青森市の子どもたちが、市の条例によって一人ひとりが認められ、守られていることがわかった。もっと子どもの権利について調べ、学びたいと思った。

○子ども委員

自分の知識を深めることができる良いきっかけになった。学校でも、生徒会を中心に、給食の時間、子どもの権利について放送をしてみんなに広める活動をした。来年度も子ども委員を続けて、子どもの権利について高校でも広めていきたい。

フリートーク～来年度の子ども会議でやってみたいことなど～

友人からいじめを受けた時の対応方法について、他の子ども委員からのアドバイスや「自分だったらこうする」という意見交換

○子ども委員

友人がいじめを受けていたということを話してくれたが、大人には話したくないと言った。どのように相談にのってあげたらよいか一人で考えていた時期があった。このような場合、どのようにすればよいか、皆さんの考えが聞きたい。

○子ども委員

「自分がずっとそばにいる」と言ってあげることで、解決はしなくても、辛くなったときにはそばにいるし、いつでも相談してもらえればということを伝える。

○子ども委員

いじめた人たちには言いにくいので、いじめられている友人に「あまり大きく考えない方がいいよ」と言う。

○子ども委員

私は、加害者に言ってしまうと思う。相談されて助けて欲しいと言ってくれたら、力になりたいと思う。

○子ども委員

気軽に話をするだけでも心は変えられると思う。コミュニケーションを取ることがどれだけ大切かということ、子ども会議で学んだので、それを活かしたいと思う。

来年度の活動の中で取り組んでみたいことや身の回りのことで気づいたこと、感じたことなど
--

○子ども委員

今年の活動を通して、子ども会議の委員だけではなく、学校と連携して、各学校にチームのようなものをつくれれば、もっと子どもの権利の普及啓発が進むし、いろんな人に知ってもらえると思った。

○子ども委員

遊びに出かけると、いろんな場所で勉強している高校生がいて、中には「こんな場所で勉強しているの？」という人もいる。勉強、交流のスペースがあってもいいと思う。

○子ども委員

勉強するスペースが少ないと思う。増えてくれるとうれしい。

○子ども委員

勉強スペースに関して、商店街で空き店舗が多いということなので、そこをかつようしてみたらどうかと思う。交流という面でも、広い視野で日本全国、世界にも目を向けて、子どもたちのための交流の場を増やしていければと思う。

【青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会】

報告(1) 平成26年度青森市子ども施策に関する主な取組みについて

事務局より資料1について説明

質疑・応答

○委員

「子宮頸がん等ワクチン接種事業」について、青森市としては引き続きワクチンの接種をするということだが、安心して接種させて良いのか。

○事務局

国でも、まだ審議過程である。市としては、予算としては計上しているが、明らかに間違いなく安全ということが出ない限りは、積極的な勧奨はしないということとしている。

○委員

子どもの居場所ガイドブックについて、「放課後デイ」は子どもの居場所には括られていないのか。青森市では障害のある子どもの居場所としてこういうところがあるというように作ると、漏れがないと思うがどうか。

○事務局

広い意味では、「放課後デイ」は、障害のある子どもたちの放課後の居場所ということになるが、障害者総合支援法に基づいた仕組みとなっているため、今回はこのように整理させていただいた。次回、作成する際は、工夫させていただく。

○委員

「青森市子どもの権利擁護委員運営事業」について、調査費用はこのうちどのくらいを占めているのか。

○事務局

この事業については、ほぼ人件費である。

○委員

子どもの権利条例の中で、行動計画を作るということになっているが、新システムが落ち着いてからということになるか。

○事務局

平成 27 年 4 月から子ども・子育て支援新制度がスタートし、それにより、青森市の児童福祉分野が、大きく変わると思う。子ども・子育て支援新制度が始まった後に、行動計画について、委員の皆様にご相談させていただくということを考えている。

報告 (2) 平成 25 年度第 2 回及び第 3 回青森市子ども・子育て会議の概要について

事務局より資料 2 について説明

質疑・応答

○委員

市では、子ども・子育て会議で、今後、アンケート調査についてクロス集計をし、青森市の子ども・子育て支援計画の中で量を決めていくとのことであるが、一方で、国の方では、財源がまだという話を聞いているがどうか。

○事務局

財源確保の問題だけでなく、国から、時々示される予定のものが示されていない状況にある。

○委員

ニーズ調査の全体像がよくわからない。就学前、小学校低学年の子どもの保護者となると、女性の就労と関係することになると思うが、青森市の求人状況や事業所への助成といったところとは、リンクしているのか。

○事務局

ニーズ調査の段階で、夫婦の就労状態を 8 パターンに分けて行っているのですが、なおさらクロス集計でないとわかりにくいものとなっている。

報告 (3) その他

事務局より資料 3～6 について説明

質疑・応答

○委員

子どもの権利の日のイベントの開催について、市教育委員会とタイアップしてもらえないか。

○事務局

教育委員会とも連携しているつもりであったが、更に教育委員会と連携を密にしていきたい。

○委員

日程について、11月1日というのは未定か。

○事務局

子ども委員と日程を調整し、決定する予定である。

○委員

11月1日は、中学校の演劇発表会がある。調整が必要になるかもしれない。

○委員

リンクステーションホール青森よりは、アウガの方がアクセスはいいと思う。

○委員

子どもの権利相談センターの相談件数 286 件中、重大な事件というのはなかったとみてよいか。

○事務局

重大な事案に繋がるものはない。

○委員

子どもの権利相談センターのシールについて、中学校独自の取組みのため古川中学校にのみの配布なのか。

○事務局

そのとおりである。